

一、「ポツダム」米、英、支三國宣言

(千九百四十五年七月二十六日「ポツダム」ニ於テ)

- 一 吾等合衆國大統領、中華民國政府主席及「グレート、ブリテン」國總理大臣ハ吾等ノ數億ノ國民ヲ代表シ協議ノ上日本國ニ對シ今次ノ戰爭ヲ終結スルノ機會ヲ與フルコトニ意見一致セリ
- 二 合衆國、英帝國及中華民國ノ巨大ナル陸、海、空軍ハ西方ヨリ自國ノ陸軍及空軍ニ依ル數倍ノ增強ヲ受ケ日本國ニ對シ最後の打撃ヲ加フルノ態勢ヲ整ヘタリ右軍事力ハ日本國ガ抵抗ヲ終止スルニ至ル迄同國ニ對シ戰爭ヲ遂行スルノ一切ノ聯合國ノ決意ニ依リ支持セラレ且鼓舞セラレ居ルモノナリ
- 三 曠起セル世界ノ自由ナル人民ノ力ニ對スル「ドイツ」國ノ無益且無意義ナル抵抗ノ結果ハ日本國國民ニ對スル先例ヲ極メテ明白ニ示スモノナリ現在日本國ニ對シ集結シツツアル力ハ抵抗スル「ナチス」ニ對シ適用セラレタル場合ニ於テ全「ドイツ」國人民ノ土地、産業及生活様式ヲ必然的ニ荒廢ニ歸セシメタル力ニ比シ測リ知レザル程更ニ強大ナルモノナリ吾等ノ決意ニ支持セララル吾等ノ軍事力ノ最高度ノ使用ハ日本國軍隊ノ不可避且完全ナル壊滅ヲ意味スベク又同様必然的ニ日本國本土ノ完全ナル破壊ヲ意味スベシ
- 四 無分別ナル打算ニ依リ日本帝國ヲ滅亡ノ淵ニ陥レタル我儘ナル軍國主義的助言者ニ依リ日本國ガ引續キ統御セラレベキカ又ハ理性ノ經路ヲ日本國ガ履ムベキカラ日本國ガ決定スベキ時期ハ到來セリ
- 五 吾等ノ條件ハ左ノ如シ
吾等ハ右條件ヨリ離脱スルコトナカルベシ右ニ代ル條件存在セズ
- 六 吾等ハ遲延ヲ認ムルヲ得ズ
- 七 吾等ハ無責任ナル軍國主義ガ世界ヨリ驅逐セラルルニ至ル迄ハ平和安全及正義ノ新秩序ガ生ジ得ザルコトヲ主張スルモノナルヲ以テ日本國國民ヲ欺瞞シ之ヲシテ世界征服ノ舉ニ出ヅルノ過誤ヲ犯サシメタル者ノ權力及勢力ハ永久ニ除去セラレザルベカラズ
- 八 右ノ如キ新秩序ガ建設セラレ且日本國ノ戰爭遂行能力ガ破碎セラレタルコトノ確證アルニ至ル迄ハ聯合國ノ指定スベキ日本國領域内ノ諸地點ハ吾等ノ茲ニ指示スル根本的目的ノ達成ヲ確保スル爲占領セラルベシ
- 九 「カイロ」宣言ノ條項ハ履行セラルベク又日本國ノ主權ハ本州、北海道、九州及四國並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セラルベシ
- 十 日本國軍隊ハ完全ニ武裝ヲ解除セラレタル後各自ノ家庭ニ復歸シ平和的且生産的ノ生活ヲ營ムノ機會ヲ得シメラルベシ
- 十一 吾等ハ日本人ヲ民族トシテ奴隸化セントシ又ハ國民トシテ滅亡セシメントスルノ意圖ヲ有スルモノニ非ザルモ吾等ノ俘虜ヲ虐待セル者ヲ含ム一切ノ戰爭犯罪人ニ對シテハ嚴重ナル處罰ヲ加ヘラルベシ日本國政府ハ日本國國民ノ間ニ於ケル民主主義的傾向ノ復活強化ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去スベシ言論、宗教及思想ノ自由並ニ基本的人權ノ尊重ハ確立セラルベシ
- 十二 日本國ハ其ノ經濟ヲ支持シ且公正ナル實物賠償ノ取立ヲ可能ナラシムルガ如キ産業ヲ維持スルコトヲ許サルベシ但シ日本國ヲシテ戰爭ノ爲再軍備ヲ爲スコトヲ得シムルガ如キ産業ハ此ノ限ニ在ラズ右目的ノ爲原料ノ入手(其ノ支配トハ之ヲ區別ス)ヲ許可サルベシ日本國ハ將來世界貿易關係ヘノ參加ヲ許サルベシ
- 十三 前記諸目的ガ達成セラレ且日本國國民ノ自由ニ表明セル意思ニ從

0200

ヒ平和的傾向ヲ有シ且責任アル政府ヲ樹立セラルルニ於テハ聯合國ノ
占領軍ハ直ニ日本國ヨリ撤收セラルベシ

十三 吾等ハ日本國政府ガ直ニ全日本國軍隊ノ無條件降伏ヲ宣言シ且右
行動ニ於ケル同政府ノ誠意ニ付適當且充分ナル保障ヲ提供センコトヲ
同政府ニ對シ要求ス

右以外ノ日本國ノ選擇ハ迅速且完全ナル壊滅アルノミトス

「参考」「カイロ」宣言

(千九百四十三年十一月二十七日)

「ローズヴェルト」大統領、蔣介石大元帥及「チャーチル」總理大臣ハ各
自ノ軍事及外交顧問ト共ニ北「アフリカ」ニ於テ會議ヲ終了シ左ノ一般
的聲明發セラレタリ

「各軍事使節ハ日本國ニ對スル將來ノ軍事行動ヲ協定セリ

三大同盟國ハ海路、陸路及空路ニ依リ其ノ野蠻ナル敵國ニ對シ假借ナ
キ彈壓ヲ加フルノ決意ヲ表明セリ右彈壓ハ既ニ増大シツツアリ

三大同盟國ハ日本國ノ侵略ヲ制止シ且之ヲ罰スル爲メ今次ノ戰爭ヲ爲シ
ツツアルモノナリ右同盟國ハ自國ノ爲メ何等ノ利得ヲモ欲スルモノ
ニ非ズ又領土擴張ノ何等ノ念ヲモ有スルモノニ非ズ

右同盟國ノ目的ハ日本國ヨリ千九百十四年ノ第一次世界戰爭ノ開始以
後ニ於テ日本國ガ奪取シ又ハ占領シタル太平洋ニ於ケル一切ノ島嶼ヲ
剝奪スルコト並ニ滿洲、臺灣及澎湖島ノ如キ日本國ガ清國人ヨリ盜取
シタル一切ノ地域ヲ中華民國ニ返還スルコトニ在リ日本國ハ又暴力及
貪慾ニ依リ日本國ガ略取シタル他ノ一切ノ地域ヨリ驅逐セラルベシ
前記三大國ハ朝鮮ノ人民ノ奴隸狀態ニ留意シ總テ朝鮮ヲ自由且獨立ノ

モノタラシムルノ決意ヲ有ス

右ノ目的ヲ以テ右三同盟國ハ同盟諸國中日本國ト交戦中ナル諸國ト協
調シ日本國ノ無條件降伏ヲ齎スニ必要ナル重大且長期ノ行動ヲ續行ス
ベシ」

二 「ポツダム」宣言受諾経緯概説

本年七月ニ入ルヤ帝國政府ヲ繞ル情勢ハ益々惡化シ、最惡ノ事態ニ立到
リ、交戦ノ繼續ハ激烈ナル破壊ト慘酷ナル殺戮トノ極マル所途ニ我民族
生存ノ根據ヲ奪フノミナラズ、人類文化ノ大本ヲ滅却スルニ到ルコト必
然トナリタリ。

斯クテ政府ハ、畏クモ一億民草ノ康寧ト人類ノ福祉トヲ深ク御軫念セラ
ルル 天皇陛下ノ大御心ヲ體シ、之ニ副ヒ奉ルベク八月九日以來軍統帥
部トモ連絡シ、慎重ナル熟議ヲ重ネ御聖斷ヲ仰ギタル結果、八月十日拂
曉ノ閣議ニ於テ「ポツダム」宣言ハ國體ヲ變更スルノ要求ヲ包含シ居ラ
ズトノ趣旨ヲ了解ヲ明シテ右宣言ヲ受諾スルコトニ決定セリ。依テ八
月十日中立國タル瑞西及瑞典國政府ニ對シ本次第ヲ米、英、蘇、支四國
ニ傳達シ右了解ニ關スル先方ノ回答要請方依頼セリ。四國政府ノ回答ニ
接スルヤ、帝國政府ハ回答ノ條項ガ帝國國體ノ護持ト矛盾セザルヤニ付
慎重檢討ヲ加ヘ、八月十四日御前會議ニ於テ御聖斷ヲ仰ギタル結果、同
日午後ノ閣議ニ於テ帝國政府ハ「ポツダム」共同宣言ニ舉ゲラレタル條
件ヲ受諾、之ヲ實施スルコトニ決定シ、畏クモ 天皇陛下ニ於カセラレ
テハ、昭和二十年八月十四日附ヲ以テ「ポツダム」宣言ノ條項受諾ニ關
スル大詔ヲ頒發セラレタリ。右帝國政府ノ決定ハ同日附ヲ以テ瑞西國政
府ヲ通ジ米、英、蘇、支四國政府ニ傳達セラレタリ。

0201